

亂立·亂戰·亂調



新横手市議会議員選挙

新横手市会議員選挙は定数三十四に七十三の立候補、県会議員選挙の一倍の広さでの選挙戦、平鹿町の立候補者十一名中当選者三名と言う乱調で終わった。

発行所
堀田賢逸後援会
平鹿町醸翻字醸翻98-2
Tel.0182-25-4011
e-mail:
igohotta@amber.plala.or.jp

いよいよ十月十六日の告示日早朝に必勝祈願が行われ午前八時より出陣式、遊説車は午前九時出発、七日間の選挙戦突入であった。

この度の選挙の特徴は広域でありしかかも候補者が七十三名と議員定数の二倍以上、旧横手市出身以外の候補者には極めて誰一人選舉に立つなかった。

明けましておめでとうございます。
去年は兵庫県尼崎市のJR福知山線での脱線事故で死者百七人、負傷者五百四十九人の大惨事がありました。また、衆院選の自民党圧勝を受け、一度は否決された郵政民営化関連六法案が成立するなど、驚く事が多くあります。

また懸案であった上水道も一月中旬に使用できる見通しになった事は喜ばしいことです。水道問題のように今後も私達の要望を解決してゆく為に後援会の組織を強く大きくしていくなければと考えております。会員各位のより積極的なかかわりを期待するところです。

健康で楽しいことを

堀田 賢治

想得票など検討されていた。開票は立会人に当選していた高橋幸雄氏が午後八時より立ち会つた。午後九時ごろには事務所にも六十人ほどが集まり結果を待つ。第一報は午後十一時頃、先ず大丈夫。午前一時前、高橋さんが帰るのを待つて万歳を叫んだ。

堀田氏には千三百七十二票の重さを噛みしめ、健康に留意しながら目標の達成と地域住民の融和に努めていただきたい。

方事務局は、局長、高安昇氏（編集委員長）の他、通寿会、堀田議員の同期生が力を貸してくれた。そして九月十九日付けの後援会報「風」八号には堀田候補の「新市の基礎作成」の目標が示され、その的確な表現が好評を博した。

所にも六十人ほどが集まり結果を待つ。第一報は午後十一時頃、先ず大丈夫。午前一時前、高橋さんが帰るのを待つて万歳を叫んだ。堀田氏には千二百七十二票の重さを噛みしめ、健康に留意しながら目標の達成と地域住民の融和に努めていただきたい。

結果	
2,362	
2,107	
2,088	
1,603	
1,579	
1,561	
1,560	
1,451	
1,412	
1,397	
1,335	
1,301	
1,274	
1,273	
1,272	
1,246	

1,240
1,210
1,181
1,180

(編集部)

議会議員選挙投票結果

1	赤川堅一郎	2,362
2	土田百合子	2,107
3	木村 清貴	2,088
4	石山 米男	1,803
5	斎藤 光司	1,579
6	佐々木喜一	1,561
7	奥山 豊	1,560
8	佐藤 誠洋	1,451
9	高橋 大	1,412
10	柿崎 実	1,397
11	塙田 勉	1,335
12	佐藤 功	1,301
13	菅 篤司	1,274
14	阿部 正夫	1,273
15	堀田 賢逸	1,272
16	佐藤 忠久	1,246
17	田中 敏雄	1,210
18	立身 千万子	1,181
19	佐藤 清春	1,180
20	菅原 恵悦	1,170
21	小笠原恒男	1,168
22	寿松木 孝	1,137
23	播磨 博一	1,112
24	高安 進一	1,107
25	上田 祐輝	1,088
26	柿崎 孝一	1,076
27	佐藤 徳雄	1,071
28	石井 正志	1,058
29	高橋 勝義	1,054
30	阿部 信孝	1,031
31	近江 湖静	1,027
32	佐々木 誠	1,021
33	高橋 謙	1,013
34	上田 隆	963

国は既政黨的政策に対する支持の意図を示す形で、我々は少なからぬ予算で今までと同じような生活をするように工夫しなければなりません。どのように生き、どのように死んでいくか、それが問題なのであります。何を以つて「幸せ」と思つたか、は千差万別なわけですが、『健康が一番』だとの思いは大方異論の無いところです。う。健康で楽しい事を一つでも見つける事が出来るようになります。私は頑張つてみたいと思つております。あい変わらず勉強の毎日ですが、知らない事を知る喜びを味わいながら課題を克服して行くつもりです。選挙でいただいたあの熱いご支援を引き継ぎお願いしまして、あいさつと致します。

平成十七年十月一日、「一市七ヶ町村が合併して、人口十万九千人、秋田県第二の新「横手市」が誕生しました。それに伴い今まで誰も経験したことの無かつた市議会議員選挙が十月十六日告示、二十三日投開票で施行されました。幸い多くの皆さんから様々な形でご支持をいただき、当選することができました。本当にありがとうございました。議会の構成を決める初議会で厚生常任委員長に就任することになりました。「厚生」とは「人間の生活を健康な豊かなものにすること」とあります。

いている（風8）。
者にこそ目を向
といふ理念の持
選挙でも新市の
い公約として訴
議会で厚生常任
とになったこと
間口除雪で見せ
してほしい。

号裏面)。政治は弱
けなければならない
ち主である。今回の
基礎作りに欠かせな
ってきた。今回、初
委員長に就任するこ
は天が与えた好機、
た感覚で大いに活躍

堀田 賢逸後援会総会の案内
とき 一月二十二日(日)
時間 十四時
場所 高齢者創作館



國語

正月前から大雪に見舞われありが
て、よ、已暮更所となつて。こゝよ

議会報

堀田 賢逸

初議会

横手市議会は一般選挙後、初の議会を平成十七年十一月十四、十五、十六の三日間開いた。定員三十四名の議員が集まり、議会の内部構成を決め、合併後溜まつた案件を処理するためです。

会派

横手市議会は会派代表者制をとっているので議席も会派ごとにまとまって配置されています。私は所属する会派は「ニューウエーヴ」でメンバーは会派代表の赤川堅一郎氏、柿崎実氏、石井正志氏、佐藤徳雄氏と私の五人で会派を作りました。

常任委員会

私は厚生委員会の所属となり、そこで厚生委員長に推薦されました。非才ではありますか、せっかくの機会でもありましたのでその任をお引き受けしたところであります。お引き受けしたことでも可也忙しくなると思いますが皆様からの要望事項など一生懸命やらせていただきます。

条例を決める

旧八市町村から持ち寄られた条例は合併協議会の中で取扱選択され横手市長職務執行者によって専決処分（議会の議決が必要だが、議会の議決を経ずに決定すること）されていました。議決に際して各議員には不満、不安がありました。理由としては、今まで慣れ親しんだ条例と若干違うこと、量が膨大なものであることです。今後時間をかけて吟味されることだと思います。

理由としては、今まで慣れ親しんだ条例と若干違ったところであります。議決に際して各議員には不満、不安がありました。

委員長報告

十二月定例会最終日、各委員長報告のトップを切って委員長報告をやりました。厚生委員会に付託になった議案は十八件、陳情六件の審査の経過と結果について報告しました。要した時間は約四十分。午後からは補正予算の委員長報告もありのどの渴いた一日となりました。

健康で安心して暮らせる町づくりや、地域毎の文化や伝統を大事にし、特徴ある地域作りにどう取り組むのか、など議会での堀田さんには支援した皆さんへの期待がたくさん詰まっていると思います。初心を忘れず今後四年間一生懸命がんばって下さい、期待しています。

十一月定例会

定例会は十二月六日から二十一日まで行われました。市長の所信表明は選挙の公約から始まり、病院事業、子育て支援、除雪対策、JR駅前周辺整備事業など、五十四項目に渡りました。



総括責任者 森田 貞一

持ち味を生かした活躍に期待

編集後記

堀田賢逸さん、横手市議会議員当選おめでとうございます。平成の大合併と言われる今回の合併は、新横手市において、合併まで糾余曲折はありました。市長の所信表明は選挙の公約から始まり、病院事業、子育て支援、除雪対策、JR駅前周辺整備事業など、五十四項目に渡りました。

昨年の世相は格別に喧騒だった。明けましておめでとうございます。この豪雪である。特にりんご農家の方々には除雪の苦労が並んでいた。この健闘を祈る次第である。かたや、元日の魁に「誇り高き古里づくり」と

助役を決める

石川耿一氏を全員賛成で決定しました。

一般質問

持ち時間一人七十分。一日五人で三日間かかりました。その内容は提案も多岐にわたり勉強させられました。私は厚生常任委員長と言うことで今回は委員会に重点を置くことにしました。

最初の厚生常任委員会

十二月十五日前十時前、委員会室に入ると当局の説明員として三十二名の方々が勢揃いしていました。最初の委員会のため顔見せと言ふ点など一生懸命やらせていただきました。

十二月十五日午前十時前、委員会室に入ると当局の説明員として三十二名の方々が勢揃いしていました。最初の委員会のため顔見せと言ふ点など一生懸命やらせていただきました。当委員会の場合、庁舎が十カ所、施設が八カ所、病院二カ所、消防などがあります。これも合併で本庁舎が分散していることの欠点の一つだと感じました。



十二月から一月にわたり、二年がかりとなってしまった。年末、多忙の折原稿依頼で大変迷惑をおかけしましたことお詫びいたします。本誌第9号の編集は十二月から一月にわたり、二年がかりとなってしまった。年末、多忙の折原稿依頼で大変迷惑をおかけしましたことお詫びいたします。本誌の皆様のご多幸をお祈りします。

上での、現在、未来であろう。年末に出た「里」と言う思想（内山節・新潮社）も一読の価値がありそうに思う。

本誌第9号の編集は十二月から一月にわたり、二年がかりとなってしまった。年末、多忙の折原稿依頼で大変迷惑をおかけしましたことお詫びいたします。本誌の皆様のご多幸をお祈りします。